石狩の農業と街マップ

地域のみなさまに近い農業で新鮮な農畜産物をお届けします

1. 石狩市の自然

石狩市は札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にあります。江戸時代初期には河口部流域が「場所」(交易を行う範囲)に指定されたことや交通の要所であったことから、西蝦夷地の中心地として重要な役割を果たしてきました。近年は、石狩湾新港をベースにした国際的な文化・経済の拠点として、めざましい発展を遂げています。総面積は722.33km²。東西に28.88km、南北67.04kmに広がっています。西側一帯は石狩湾に接しています。

北海道の中でも温暖で四季の変化に富み、台風の影響も極めて少ないのが特徴です。対馬海流の影響による海洋性気候で、春から夏、秋にかけてはしのぎやすく、冬期間の気温も零下10度以下になることは少なく、気温格差もそれほど大きくありません。積雪も12月から3月頃までで、最深積雪は120センチ前後です。

2. 石狩市の農業の経緯

石狩で最初に開拓が始まったのは生振と花畔で、明治4年（1871年）のことです。明治7年（1874年）頃からは養蚕も行われていた記録が残っています。その後、明治末から大正期にかけて、樽川村や花畔村は道内酪農の中心地となります。

戦後の造田の成功により広大な水田地帯となった石狩でしたが、農業生産基盤の大きな変化を受けて野菜生産にも注力し、ミニトマトなど新しい作物のブランド化、新規就農者の受け入れ、クリーン農業の推進など、様々な試みがなされています。

3. 石狩市の主な農業

石狩地区は、札幌市に隣接する立地の優位性を活かした「都市近郊型農業」を推進し、水稲をはじめ、小麦、馬鈴薯、人参などの土地利用型作物や、ブロッコリー、ミニトマト、さやえんどう等の労働力集約型作物、花き栽培や畜産など多様な農業が展開されています。

（1）水稲【きらら397、ななつぼし、ゆめぴりか、あやひめ】

石狩市は道内有数の食味を誇る良質産地であり、石狩市で生産される農作物取扱高の2割以上を占める主要作物となっています。安全・安心な農産物生産につながる北海道独自の栽培基準制度「YES！clean」を導入し、消費者より信頼される米産地の形成に積極的に取り組んでいます。

（2）小麦【春よ恋（春小麦）、きたほなみ（秋小麦）】

製パン性に優れた春まき小麦強力粉「春よ恋」、麺類に適した秋まき小麦薄力粉「きたほなみ」の栽培･生産に取り組み、石狩産の小麦を通じた地産地消による地域活性化に貢献しています。

（3）ブロッコリー

石狩地区では、平成11年に生振地区で栽培が開始された後、平成30年（2018年）には販売金額が4億円、令和2年（2020年）には5億円に達するなど水稲に次ぐ石狩の主要生産物です。栄養価が高く、近年の消費拡大を受け、令和8年（2026年）には、昭和49年（1974年）のじゃがいも以来52年ぶりに農林水産省の「指定野菜」に追加される予定です。

（4）さやえんどう

石狩市は、冷涼な気候を好むさやえんどう栽培に適しており、北海道でも有数の生産地です。

市場からは最高級の評価を受けており、秀品は高級料亭で使われるほどの品質の良さを誇っています。砂壌土地帯での栽培のため、さやが薄く形状は美しく、味は甘みがあるのが特徴です。

（5）アスパラガス

石狩では、春に寒暖の差があるため、糖度が乗った甘いアスパラガスになるのが特徴です。品種を厳しく選定し、グリーンの強さにこだわった美味しいアスパラガスを出荷しています。

JAさっぽろの直売所「地物市場とれのさと」では旬の時期に朝採れ新鮮なアスパラガスが店頭に並び、購入希望のお客様が開店前から長蛇の列を作るほどの人気です。

（6）ミニトマト

畑地かんがい施設の整備、施設園芸の普及拡大とともに生産振興を図ったミニトマトは、「いしかり DE CHU！」のブランド名で出荷され高い評価を受け、新規就農者の作付作物としても定着しています。栽培基準制度「YES！clean」認証を受けるなど、安全・安心な食の提供を考慮しながら栽培しているのが特徴です。

（7）畜産

石狩地区はかつて酪農が盛んでしたが、石狩湾新港地域の開発や宅地造成の影響により、都市近郊型農業地域へと変わったことで、都市環境調和型の畜産業を展開しています。地元産の生乳を使用したアイスクリームの販売が人気です。

石狩八幡支店
営農販売部
石狩経済店
八幡SS
石狩湾
石狩河口橋
231
茨戸川
石狩川
337
石狩花畔支店
337
シャトレーゼ
ガトーキングダム サッポロ
273
石狩手稲通
石狩市役所
樽川7番通
花畔SS
231
地物市場とれのさと